

令和8年度第1回山形県職業能力開発審議会議事録

日時：令和8年4月27日（月）

午前10時～正午

会場：県庁1001会議室

1 開会

2 産業労働部長挨拶

3 出席者紹介

4 会長選出

5 会長挨拶

6 議事録署名委員の指名

7 議事

- (1) 第11次山形県職業能力開発計画の取組状況について（報告）
- (2) 第12次山形県職業能力開発計画の策定について（諮問）
- (3) 令和8年度産業労働部関連予算について（報告）
- (4) 「県立職業能力開発施設の今後のあり方」に関する答申を受けての県の対応方針について（報告）

以下、各委員から発言あった意見

【遠藤委員】

昨今、ニュースや新聞でも取り上げられているところですが、AI等の台頭により社会が便利になる一方で、AIでは作業することができない、ものづくりを行う人材の価値が上がっている、注目度が高まっているといった話題を見かけます。当センターでも、それぞれの科を紹介するチラシを作る一方で、ものづくり人材自体の価値が高まっているという内容のチラシを作成し、ポリテクセンター等を知ってもらうことにつなげております。県においてこれまでも取り組んでいただいている、ものづくりガイドブックや各校のパンフレット等の中でも、今世の中ではこれだけものづくり人材に対する気運が高まっていて、ものづくり人材が注目されているということを周知し、小中学生の段階から興味を持ってもらって、将来的なものづくり人材の育成、輩出につながるのではないかと考えております。広報関係の今年度の予算も拡充するというので、個人的には嬉しく思いますので、そういった社

会的背景も含めた周知広報をお願いしたいと思います。

【須藤委員】

第 11 次山形県職業能力開発計画の取組状況をご説明いただき、改めて、本当に様々な取組みをしていただいていると実感しました。東北芸術工科大学にも、ものづくりに興味があり、実際に学んでいる学生が多く入学してきているので、県内に製造業の中小企業が多い山形県との親和性は本来高いと思っております。実際、ものづくり関係の仕事に就きたいという学生も多くいますが、県内の中小企業とのマッチングにまでは至っていないと思っております。取組状況の中で、やまがた就職情報サイト等、県内企業を案内して就職の促進に向けた取組みもしてくださっていますが、大学生にはまだ届いていないと痛感しております。そういった取組みをしているところを、現場（大学等）で上手くつなげられていないことを課題点として感じているので、その連携に上手く取り組んでいきたいと考えております。

一方で、限定されてはいますが、プロダクトデザイン学科では、在学中から県内企業を複数見て回る見学ツアーを行っております。そういった地道なことから、県内の製造業を知る機会を作り、就職促進につなげていければと考えております。

質問ですが、次世代ものづくり人材育成促進事業費の事業概要をご説明いただきましたが、管内小中学生を対象に地域内のものづくり企業等の説明を集合型で行うモデル市町村等に対する支援について、どういう取組みをされるのか、新規事業ということもあるので、詳しく教えていただければと思います。

【加藤委員】

三つの視点でお話しをさせていただきます。

一つ目は産技短庄内校について。産技短庄内校と庄内センターをどうするかということが、庄内地域の職業能力開発の最重要事項になると思っております。庄内に限らず、県内のほとんどの公立高校が定員を確保できない中で、極めて現場に近い教育をしていることをどう PR していくのが非常に鍵になると思っております。再編の姿について、このような感じであろうと思っておりますし、産技短庄内校の教育振興会長をさせていただいており、素晴らしい教育をしていることを知っているのもっと知名度があって子どもを集める力があればいいといつも思っております。

二つ目は、すぐ隣にある公立化した東北公益文科大との連携をもっと図れないものかということですが、庄内地域における高等教育となると、公益大か鶴高専か産技短庄内校かということになるのですが、公益大はとても成長している感じがあり、子どもたちをたくさん集めて前に進んでいく中で、公益大には技術系の学科がなく、上手い手はないかといつも思っております。

三つ目は、山形県の沿岸部で展開されている洋上風力についてです。洋上風力には、かなり大きな職業訓練をして何かをするという仕事が内在していると思っております。その一部だけでも、産技短庄内校か庄内センターに持ってきて、将来に向けた職業能力開発の一環に

できないものかと、誰もが思っています。秋田県沿岸部に企業が学校を作っているように、その受け皿となる組織にならないものかと思っております。

【鈴木委員】

様々なものづくり教育をしてもらっている中で、ものづくりマイスター派遣というものがあるのは知っていましたが、県内全てで実施しているのでしょうか。置賜地域ではその話を聞かないので、浸透しているのか疑問に思っているところでした。ものづくりに興味を持つのは小中学生のうちからが良いと思っており、置賜地域ではWAKU WAKU WORKという企業が学校に出向いて知ってもらう取組みがあるのですが、他の地域では行っているかどうか。また、大学生にも企業を知ってもらうという話も出ましたが、企業を見学してもらえらる仕組みを作っていないのでしょうか。せっかく製造業が県内にたくさんあるのに、それを知らずに大学生が県外へ行ってしまうのはもったいないので、こういった会議の中で、皆さんに知ってもらう機会を考えていただけないかと思いました。

【中鉢委員】

まず、山形職業能力開発専門校の講座の受講実績の人数が減少傾向にあると感じます。対して、やまがた産業支援機構の研修受講者は増加傾向にあるので、分析をして、ぜひ多くの方に受講していただけるようにしていただきたいと思いました。

二つ目は、県立職業能力開発施設の広報の強化と入校生の確保について、インスタグラムはされていますでしょうか。若い方々は、X（旧Twitter）やFacebookよりも、インスタグラムを見ているようなので、そちらも活用されてはどうかと思いました。また、産技短の山形校と庄内校のホームページを見せていただきましたが、山形校の方は一目見てもう少し見ていこうという気分になりますが、庄内校は文字数が多く、読み解いていくのが大変な印象を受けました。しかし、学校案内パンフレットのページでは、山形校に負けない印象的な画面が出てきますので、ワンクリックで開けるように改善されてはどうかと思いました。

三つ目は、庄内地域の職業能力開発施設の再編について、産技短庄内校は大幅に縮小だなという印象を受けております。こちらの方に、建築環境システム科や、土木エンジニアリング科を増設されてはどうかと思ったところです。加藤委員からもありましたが、洋上風力開発のエンジニアの育成や、多発する自然災害に対応できる技術者の育成は、庄内でもどうしても必要だと考えています。ぜひ庄内の事業所と連携して、建築や土木の勉強もできるような環境を盛り上げていってはどうかと思ったところです。また、庄内校の学科が減少するというのは、短大卒相当の初任給を獲得できる若者が少なくなってしまうのではないかと心配したところです。

【中西委員】

二つの話をさせていただければと思います。

まず、第11次山形職業能力開発計画の取組状況について、過去5年間で細かいところま

で実施していただいて、その中でも、企業を通してのセミナーや講習、個人的なところでの職業訓練等の支援を手厚くされていて、実績人数を見ても活用できていると思います。一方で、今後5年間に限っては、国の方針にも出ていますが、気運の醸成が非常に重要だと思っております。今回、新たに策定する予算や取組みの中で、気運の醸成についてはこういった形で検討されているのか気になりました。企業の方にご案内いただければ、キャリアアップセミナー等に参加させたいというところはあると思うので、企業も県も取り組んでいるところをPRして、大きな流れになっていくような取組みも必要だと思います。現場での細かい支援ももちろん大事ですが、せっかくやっている支援を大きな流れにしていけるように、そういったことを表に出した予算組みや取組みが必要ではないかと思いついておりました。今後の5年間の計画の策定の際に、その取組みも検討いただければと思います。

併せて、他の委員の方からも出ているのですが、PRについて、せっかく職業能力開発校が新しい名称になるようですので、認知度・知名度を高めるためにも、ぜひ広告や宣伝を含めてPRをしてもらいたいと思います。ご存じのとおり、企業は人材確保のためCM等PRに手を尽くしているのです。そういったことも必要になってくると思いますし、例えばハローワークでは現場で手厚く支援をされていると思いますが、その支援内容や魅力的な求人があることを、求人サイトや私どものような企業を使ってPRしていただき、より一層活用できるような流れになればいいのではないかと思います。

【松田委員】

第12次職業能力開発基本計画に、新たな項目が多く入っていて、良いことだと感じながら拝見させていただきました。

高校を卒業された方は、4年制大学に多く入っているようですが、そういった中で職業能力開発施設にも目を向けてもらうためには、県立高校だけでなく、私立高校も生徒募集のターゲットではないかと思っております。西置賜では、中学生が私立高校にどんどん流れて、地元の県立高校への入学者はどんどん減っている状況です。取組みについて、すでにやっつけらっしゃるのかわからないので、聞きたいと思ったところです。

前回も、認知度もPRも足りないという話になりましたが、小中学生の体験授業を様々な地域に広げていただければ、子どもたちは喜んで参加してくれると思います。

科の新設にあたり、山形校にも庄内校にも、「ここにしかない科」を設けられないかと思っておりました。ここが強いとアピールできる、魅力的な科を設ければ、県外からも人が来るのではないかと思います。

宣伝が足りないということで、企業に案内が来ないという話をされていましたが、うちにはポリテクセンター等から、こういうものを受講しませんかというチラシは結構入ってきます。受講したいと思うものがあれば、少し遠くても車で行けるので、企業に持ち掛ければ、2、3名は出席できるかと思います。

ハローワークを通して、お住まいは米沢ですが福島県で訓練をしているという方が見学にいらしたことがあります。逆に県外住まいでも山形で訓練を受けにくるという形が作れたらいいのではないかと思っております。

【石川委員】

二点、発言をさせていただきます。

言わずもがなではありますが、県内の人口減少は避けては通れない問題であります。県内では製造業の構成が割と高く、県内の総生産に占めるウェイトも非常に高くなっておりま
す。違う角度ですが、特定（産業別）最低賃金が現在3業種設定されていますが、いずれも
製造業に関するものであります。地域の雇用や経済の発展、安定を図るため、ものづくりに
携わる技術者の育成が重要なのは共通認識であると思っております。

質問として、遠藤委員からもありましたが、ものづくりガイドブックについて、小学4年
生と中学2年生を対象ということになっていますが、同じ内容のガイドブックでしょうか。
もし同じであれば、小学生と中学生では内容を分けた方がよろしいかと思えます。また、高
校生への配布はないのでしょうか。高校生にも呼び掛けて県内就職につなげるような記載も
必要かなと思えます。

個人的な話になり恐縮ですが、第11次職業能力開発計画の概要の基本方針の「根本的
に、性別だったり年齢だったり障がいの有無に関わらず、誰一人取り残すことのないニーズ
に即した職業能力開発の機会を公平に提供する」という記載が、障がいを持つ子どもの親と
して、心に刺さりました。この情報に目が触れたことは今までありません。方針はあるけれ
ど具体的な施策が少なく、もっと手を差し伸べてほしいというのが、一県民としての意見で
す。

【後藤委員】

子どもが県外の専門学校に進学したこともあり、若者の進路選択や県内定着の課題を身近
に感じているところです。私からは、産技短の入校生の確保のところについて、二点お話し
させていただければと思います。

まず、学科のカリキュラムのわかりやすさが重要ではないかと感じました。高校生が「こ
こで学ぶとどんな仕事につながるのか」具体的にイメージできることがとても大切だと思っ
ております。内容がイメージできれば、SNSを使って調べてみようと思ひ、進路選択の一
つにしようというところにつながっていくのではないかと感じております。そのためには、
どんな技術を身に付けて、卒業後にはどんな会社で、どんな仕事をしているのか、といった
ことが一目でわかる見せ方が大事だと思っています。たとえば、ホームページ等のわかりや
すさも重要だと思っております。就職先の実績、卒業生の声、どんな職場でどんな働き方
をしているのかを探さなくても見られる形にすることで、高校生やその保護者の方にも、進
路先の姿がより身近に感じられるのではないかと感じました。

二点目は、進学希望者へのアプローチと連携というところについて、大学への進学希望者
が増えているということですが、実際にはまだ具体的な目標が定まらず、とりあえず大学に
行こうという選択をされている方が少なくないと思っております。そういった方たちに、技
術を身に付ける場、社会に出る力をしっかり学べる場として産業技術短期大学校に注目して
もらうためには、パンフレットや情報発信だけではなく、学校の先生からの勧めがとても大

きな力になると感じております。進路指導の先生が自信を持って紹介できるような関係づくりや情報共有等、高校の先生方との連携が今後ますます重要になると思いました。また、卒業生が活躍している企業と連携し、企業の方から仕事の魅力ややりがい、やっていて楽しいと感じる瞬間を生言葉で伝えてもらえるような説明会や交流の場を設けることも非常に重要だと思えます。実際に働く人の話を聞くことでその仕事をしている自分の姿を想像でき、県内就職への意識も高まるのではないかと考えます。また併せまして、県内就職を促進するためには、実際に県内就職した方への就職後の処遇や福利厚生を充実させるなど、安心して働ける環境を具体的に示すことで県内就職への意識向上につながるのではないかと考えます。今後も高校生が自身の将来像を具体的に描けるよう、わかりやすく訴求していただける工夫を期待しております。

【平委員】

初めて参加させていただきましたが、様々な取組みがされていると感じました。今はAI化や機械化が進んでおりますが、人にしかできないサービスがあると思うので、こういったものづくりも大事だと思いました。

高校に進学してから夢を持つ方もいると思いますが、小中学校の頃から県内の企業を知ることは選択肢が広がるので、ガイドブックの配布で認知してもらうことが大事だと思えました。自分が中高生の頃は、そういったガイドブック等一覧で見られるものがなく、あっても情報が入ってくるのがなかったので、とても良い取組みだと思えます。

今の若い方は、テレビのニュースよりもネットや動画で情報を得る方が多いと思います。先ほどもあったように一番はインスタグラムだと思います。もっとPRの仕方を工夫するだけで、若い方たちに届く情報量はかなり増やせるので、そういったところを伸ばしていければいいと思いました。

【事務局（雇用・産業人材育成課長）】

質問等に対し、順次回答させていただきます。

須藤委員からあった、新規事業について詳しく教えてほしいという話についてです。県内の企業を知る機会がまだまだ足りないという話を昨年度からお伺いしております。高校に関しては、総合支庁を通じたWAKU WAKU WORKを、特に庄内地域で活発に行っております。進学校向けには、総合支庁単位で、学校に企業が出向いての授業がございます。そういった活動の中で、高校生が相手ならば、就職に直結する部分もあり企業の協力も得られやすいのですが、一方で小中学生向けになると、醸成や愛着が必要になるけどまだ足りないという話を頂戴しまして、今回の新規事業を考えたところです。県の予算も人手もそこまで多くはないというところがありますので、市町村と連携し、市町村の教育委員会も一緒になって授業の一環として事業を実施できれば、多くの児童が触れる機会も多くなると思い、現在、要綱を作成しているところです。事前に希望をとっておきまして、興味を示してくださっている市町村もありますので、調整を進めて実施していきたいと考えております。

PR・周知による知名度のアップについて皆様から意見をいただいているところですが、

名称の変更についても、学生さんや若い方から募集する等ある程度長い期間を設けて広告をやっていくことで少しずつ知名度を上げていきたいと考えているところです。

新学科のカリキュラムにつきましては、今から1年間で、企業様に対して必要なものづくりのノウハウをどの程度までペイできるかを検討していくことにしております。洋上風力という話もありましたが、新しい産業についてもキャッチアップできるように検討していきたいと思います。

ものづくりマイスター派遣ですが、昨年だと濃淡はありますが、県内4地域で実施しております。

鈴木委員から、企業見学を行える仕組みを作ってほしいという話がありました。今年は5年に一度のガイドブックの改訂の年にあたり、企業見学を受け入れる企業様をPRするページを新たに設けたいと考えております。バスツアーとなるとコストが見合わず、人数が限定的になってしまうところを、小中学校の市町村のやり方でできるだけ広くやっていただきたいと思いますので、企業に協力いただき、ガイドブックに載せたいと考えているところです。

中鉢委員からあったインスタグラムの話ですが、現状では、産技短では運用していないということでしたので、今後、しっかり進めていきたいと思います。

中西委員からあった気運の醸成という視点でいくと、県立施設での在職者訓練は数多く行っており、企業に勤めている方だけでなく一般の方でも受け付けています。高校に対しての出前授業についても実施しています。県内では昨年度、南陽高校と連携を結びました。今年の3月には、庄内総合高校とも新たに連携を結んでいます。庄内総合高校には商業系があるので、IT会計ビジネス科との連携を期待しているところです。

私立高校へのアプローチについては、高校連携コーディネーターを配置しており、学校訪問を拡充しながら入校生獲得を目指していきたいと考えております。

ものづくりガイドブックについて、小学校と中学校で内容は別のものになっております。小学校はよりわかりやすく、中学校はより専門的になっております。現状、高校には配付はないのですが、中学校の方はパソコンが配付になっているので、新しい版では、デジタル的なもので配れるようなものを考えております。小学校では実際に手に持って、ガイドブックを使って授業をしていただいているケースもあるので、認知度も上がってきているのではないかと思います。また、デジタル的なものであれば、高校も含めて提供も可能なので、より広く使える形になるのではないかと思います。

【議長（会長）】

ものづくり技術について追い風が吹いていると感じる中で、PRや周知が大事だということだと思います。私としましては、産技短庄内校と庄内センターの再編があるというところで、なかなか急ピッチで行われるような気がしています。カリキュラムの変更に携わった際もなかなか大変でした。現場サイドの負荷もだいぶ高まる場所もあるかと思うので、皆さんで協力してやっていただければいいなと思ったところです。

AIについては、若年層よりむしろ在職者向けに取組みがあった方がいいと思っておりま

す。若い方々は割と身に着けて入ってきている側面もあるかと思って、一方で在職者の方々と認識が一致していないと若い方がいい意見を言っても採用されないとか、そもそもわからないということもあったりするので、その溝が埋まれば良いと思うところです。

8 その他

9 閉会